

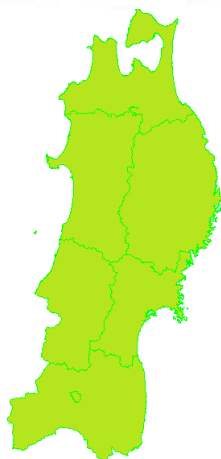
～見つけよう！今、元気なムラの取組～

東北農政局管内優良事例集

東北農政局 ディスカバー

む ら

農 山 漁 村 の 宝



平成30年度選定

平成31年2月

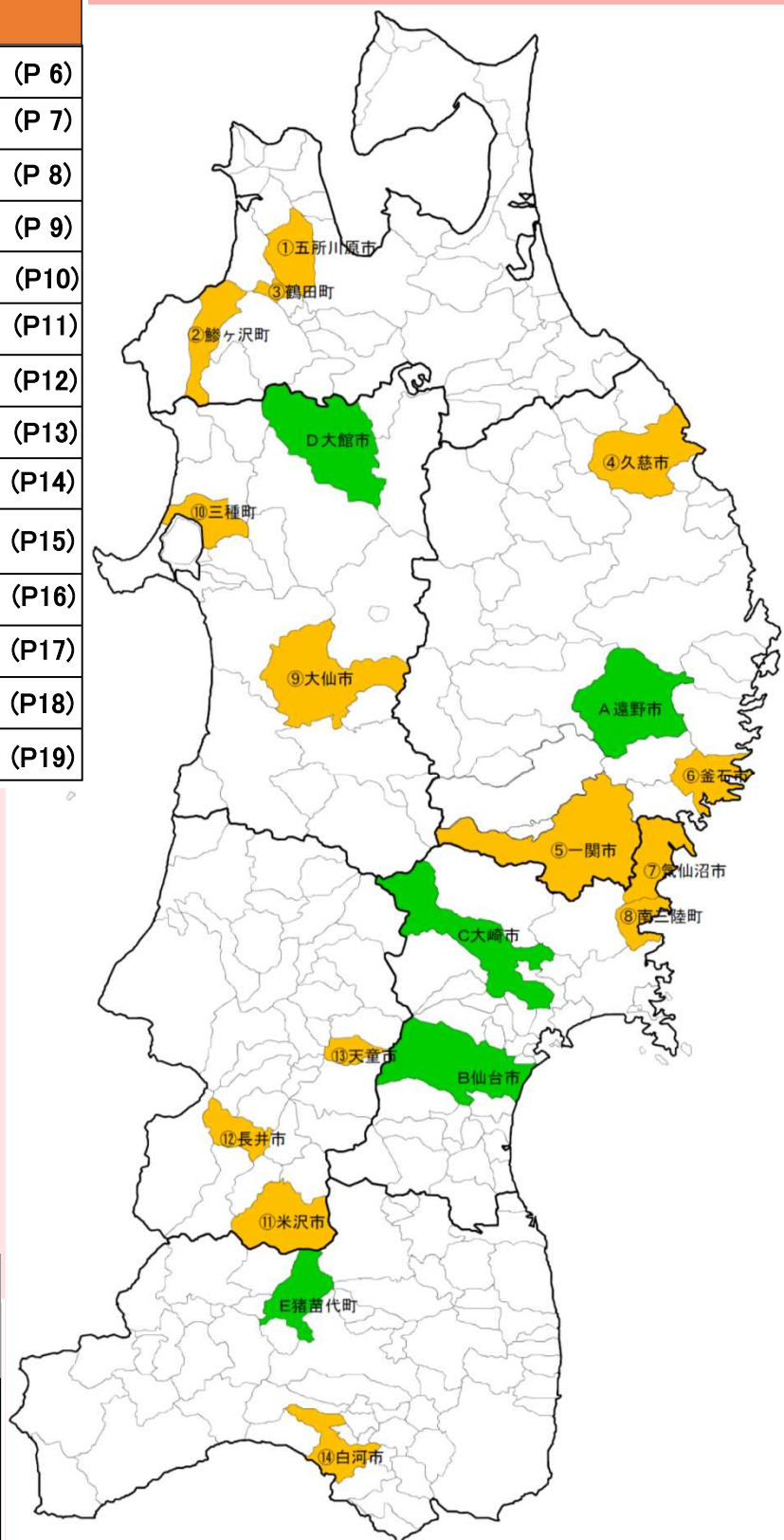
東北農政局



平成30年度 東北農政局「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」 選定位置図

●東北農政局選定団体 (掲載ページ)

①青森県五所川原市	特定非営利活動法人かなぎ元気倶楽部	(P 6)
②青森県鱒ヶ沢町	特定非営利活動法人 白神自然学校一ツ森校	(P 7)
③青森県鶴田町	廻堰大溜池土地改良区	(P 8)
④岩手県久慈市	「侍(SAMURAI)ブランド」 プロジェクト協議会	(P 9)
⑤岩手県一関市	みちのくあじさい園	(P10)
⑥岩手県釜石市	釜石市甲子地区活性化協議会	(P11)
⑦宮城県気仙沼市	農事組合法人モーランド	(P12)
⑧宮城県南三陸町	南三陸町水田農業推進協議会 ・株式会社NTTドコモ・大福株式会社	(P13)
⑨秋田県大仙市	角間川地域活性化協議会	(P14)
⑩秋田県三種町	三種町森岳じゅんさいの里活性化協議会	(P15)
⑪山形県米沢市	株式会社ニューテックシンセイ	(P16)
⑫山形県長井市	有限会社 山形工房	(P17)
⑬山形県天童市	株式会社やまがたさくらんぼファーム	(P18)
⑭福島県白河市	白河市大信地域交流促進協議会	(P19)



●全国選定団体 (掲載ページ)

A 岩手県遠野市	遠野・三陸ブランド海外輸出協議会	(P20)
B 宮城県仙台市	農事組合法人 仙台イーストカントリー	(P21)
C 宮城県大崎市	大崎の米『ささ結』 ブランドコンソーシアム	(P22)
D 秋田県大館市	大館市まるごと体験推進協議会	(P23)
E 福島県猪苗代町	農事組合法人 結乃村農楽団	(P24)

東北農政局「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」の概要

「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」とは

「ディスカバー農山漁村の宝」とは、「強い農林水産業」、「美しく活力ある農山漁村」の実現のため、農山漁村の有するポテンシャルを引き出すことにより地域の活性化、所得向上に取り組んでいる優良事例を選定し、全国に発信しているものです。

全国で選定された団体以外にあっても、東北農政局管内には数多くの優良な事例が存在していることから、地域の活性化、所得向上等の取組や都市農村交流等に取り組んでいる優良な事例を「東北農政局『ディスカバー農山漁村の宝』」として選定し、広く発信することにより他地域への横展開を図ることとしています。

選定の対象及び選定方法

選定の対象は、内閣官房及び農林水産省が実施した募集において東北農政局管内から応募のあった184団体のうち、全国段階で選定された5団体を除いた179団体としました。

選定に当たっては、農政局内に設置した「選定委員会」による審査を経て、14団体を優良事例として選定しました。

選定証授与式・意見交換

平成30年12月19日(水曜日)、仙台合同庁舎において、選定証授与式を開催しました。選定証授与式では、鈴木東北農政局長から選定団体の代表者へ選定証を授与しました。

式典後、東北農政局選定団体による意見交換を行いました。



選定団体の記念撮影



鈴木東北農政局長からの祝辞



選定証授与



意見交換

テーマ1：「各取組を通じて地域が変わってきたことについて」

○ 特定非営利活動法人かなぎ元気倶楽部

太宰治記念館については年間18万人来館者がいるが、近隣に宿泊施設がなく、もったいなさを感じていた。グリーン・ツーリズムの体験の取組と観光をリンクさせ連携することによって、滞在型エコツーリズムなどの新たな取組も行っている。今後はDMOを機能させていきたい。

○ 特定非営利活動法人白神自然学校一ツ森校

世界遺産白神の玄関口で廃校を活用して取り組んでいる。農家のお母さんと連携して、杉並区からの体験を受入していた。農家レストランやアロマなどを作っている。最近ではイスラム圏からの受入もあり、食べ物や礼拝の習慣などに苦慮している。今後はヨーロッパからのゆっくり滞在する旅行客にも対応していきたい。

○ 廻堰大溜池土地改良区

満水面積281ha、池回り11kmうち堤体が4.2kmのため池で、昔は危険であるため、人を近づけないようにしていたが、池が汚れてしまい管理が行き届かなくなってしまった。コウノトリが飛来したことをきっかけに全国的に知名度があがり、農業水利施設高度利用事業により整備を実施。最近では女優の吉永小百合のCMにも出たことで問い合わせが増えた。このような機会を生かし、青森県が日本一の生産量を誇るスチューベン(ぶどう)の加工品も含め、地域の特色をPRできるような、花火大会等のイベントも実施している。イベントに応じて水位を調整するなど改良区も広がりのある取組を実施することができるようになった。

○ 「侍 (SAMURAI) ブランド」プロジェクト協議会

取組の結果、地域の老人クラブが元気になった。民泊教育旅行受入などを通して、外に開かれた活動を行うようになり、老人クラブの会員も増加するなどの効果も出ている。

○ みちのくあじさい園

あじさいは水を好む花で杉山との相性がよい。400種の日本一のあじさい園で年間70万人が来場するようになった。また、ブリザーブドフラワーの加工など6次産業化にも取り組むようになった。

○ 釜石市甲子地区活性化協議会

取組開始後、首都圏からの大学生や社会人が地域に訪れるようになり、この人達を介して、甲子柿がPRされ販売増加につながった。また、甲子柿は、地元の小学校にも知らない子達がおおり、その子達に向けての周知活動や地元高校のスーパーサイエンスハイスクールでも甲子柿の研究をしてもらえるようになった。

○ 農事組合法人モーランド

乳牛を放牧し、牧場を観光化している。協議会を設立したことにより、商工会や地元組織の意見を聞くことができるようになった。また、協議会でアンケートを実施し、消費者の意見を聞くことができるようになり、パッケージもわかりやすいものとすることができた。また、無糖のヨーグルトなども作るようになった。

- 南三陸町水田農業推進協議会・株式会社NTTドコモ・大福株式会社
東日本大震災以降、震災復興支援により色々な企業が入ってくれた中、NTTドコモの深水管理による農薬・肥料不使用の水稻栽培で、収量は少ないが、単価が高い水稻の栽培により所得が向上することができた。1kg1300円で販売。
- 角間川地域活性化協議会
協議会で事業を実施するようになって、インバウンドや学生が地域を訪れるようになった。当初は好奇の目で見ていた人も事業実施3年目には積極的に参加してくれるようになった。また、この取組により、他県に出た地元出身者にも徐々に、協議会の取組に協力が得られるようになった。
- 三種町森岳じゅんさいの里活性化協議会
平成23年度発足当時から農協や商工会などに協力をもらっている。じゅんさいの日本一の産地ではあるが、平成3年以降生産量が減少し、平成23年には最盛期の3分の1まで低下したため、じゅんさい栽培の衰退を止めるために協議会を設立した。協議会によりじゅんさいの安心安全のためのGAP団体認証や、販路拡大などに取り組み、世界じゅんさい摘み取り選手権大会などのイベントを開催、交流人口の増加に寄与している。近年はじゅんさいの生産量も横ばいに推移している中で、全国的に知らしめることができた。
- 有限会社 山形工房
競技用けん玉を東北産の木材を使用して製作したことで、林業の所得向上につながることもできた。また、若者中心に、けん玉での地域おこしのイベント開催により交流人口も増えた。また、福祉けん玉として、認知症予防にも活用が広がっている。けん玉だけでは広がり狭いので、飲食と連携し、『大技決めれば生ビール1杯無料』などのグルメ連携イベントも実施している。
- 株式会社やまがたさくらんぼファーム
王将カフェなど観光に特化した果樹園を経営。山形DCの際に「朝摘みさくらんぼ」を実施、天童温泉と連携して、着地型の企画を提案した。かなり好評で、旅行会社と連携して昨年より規模を拡大して行っている。また、農泊の取組も行っている。昨年は130人ほどの参加があった。1週間のツアーが、ツアーを離脱して1ヶ月もボランティアとして滞在した参加者もいた。外国人労働者の前に、日本人としての労働力もまだまだあり得ると感じた。
- 白河市大信地域交流促進協議会
旧大信村の18団体により組織した。障がい者就労施設やNPO法人が経営するゴルフ場、JA、商工会などが参加。3年前に研修施設や販売所を兼ねた交流センターを商工会が指定管理者となり、交流イベントを実施するようになった。年に4回程度、日本酒の試飲会や冬期間のゴルフ場での雪遊び体験、星空体験などを行い、眠っていた地域資源を活用できるようになった。また、料理体験では、女性部、農家とも連携し、経済効果が上がっている。農産物等も自家消費にとどまらなくなった。

テーマ2：「今後の展開について」

○ 特定非営利活動法人かなぎ元気倶楽部

今後は担い手不足の問題に対応していきたいが、移住定住ではいきなりハードルが高いため、まずは関係人口増により対応していきたい。青森県と連携して「DAZAIイズム」を打ち出し、農林水産業を絡めてプロモーションしていきたい。

○ 特定非営利活動法人白神自然学校一ツ森校

旅行業法の取得をしたい。青少年教育推進機構のNEALのライセンス取得が可能になるようにしたい。冬期間も活動を行えるようにしていきたい。

○ 廻堰大溜池土地改良区

溜池を教育の場として活用していきたい。当該施設については世界かんがい施設遺産に登録されたことから、今後一層観光資源として活用していきたい。また、溜池の清掃ボランティアへの貢献など、老人クラブの恩恵を地域にも波及させていく。その他、菌床しいたけや質の良いアワビ茸などを売り出していきたい。

○ みちのくあじさい園

来客数を増やしてテレビや都営地下鉄でのPRを引き続き行っていきたい。引き続きあじさい園の来場者数とあじさいの生産者の増加を図る。

○ 釜石市甲子地区活性化協議会

首都圏からの訪問者は増えているが、その訪問者を介してさらに甲子柿もぎとり体験などを売り出し、新たな販路を獲得していきたい。

○ 農事組合法人モーランド

牧場に多くの人々が足を運んでくれているが、今後大事なことは人材である。優秀な人材を確保するため「気仙沼地域おこし協力隊」を募集し、一人候補隊員がいる、12月21日に最終面談がある。また、場内にパークゴルフ場をつくることを検討中で来年9月末にオープンを目指す。憩いの場、癒やしの場としていきたい。

○ 南三陸町水田農業推進協議会・株式会社NTTドコモ・大福株式会社

東日本大震災によりインフラが壊滅。全国から支援をもらった。家庭ゴミなどをバイオマス処理して液肥として農地に戻す「森里海」で循環させる取組を実施している。官民連携して、中山間地域の所得向上を目指したい。

○ 角間川地域活性化協議会

各組織に出資してもらい、まちづくり会社を設立したいと考えている。角間川地域で開発された商品売り出したい。また、花火大会時は慢性的に宿泊施設が足りないため、農家民泊の取組についても増やしていきたい。

○ 三種町森岳じゅんさいの里活性化協議会

農産物に対する安全性の意識が向上した。今後はさらにじゅんさいの普及・拡大に取り組み、後継者不足について対応を引き続き行いたい。じゅんさいの収穫は炎天下での手作業になり、過酷であるため、それに見合った単価となるように所得向上に図りたい。

○ 株式会社やまがたさくらんぼファーム

担い手・労働力不足についてボランティアツアーなどで対応できるが、果樹園の面的集積の課題については、徐々に顕在化している。世代交代により、栽培をやめる農家も多数にのぼり、後継者のいる農家で話し合いながら、集積をすすめている。また、質をもとめた生産だけでなく、ワイン用などの効率的な生産も取り組みたい。

○ 白河市大信地域交流促進協議会

原発の風評被害が未だ消えないため、販路を確保・拡大していききたい。6次化的な取組につなげるための商品開発を行っていききたい。